

♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.32

2020年2月24日発行
一般社団法人グリーン・市民電力



8月末、完成予定

霧島太陽光発電所

紆余曲折を経て、今年1月から工事着工!!

グリーンコープかごしま生協エリアで自然エネルギーの発電所をつくろうと、かごしま理事会が中心になって検討をすすめてきました。そして実現の可能性の緒に就いたのは、2017年のことでした。霧島市にある案件と出会い、検討をすすめることにしました。

その案件は、グリーン・市民電力独自事業ではなく、鹿児島県日置市の新電力事業者であるハッピーエネジー(株)と環境エネルギー政策研究所、グリーン・市民電力の三者が合同会社を結成し、共同事業を行っていくというものです。

当初は、地域住民への説明会も積極的に行い、順調に進むかに思いましたが、いくつかの問題・課題が生じてきました。その解決に向けて、3年という年月、真摯に対応してきました。GCかごしまの検討の様子などを含め、着工に向けた進捗について、ご報告します。

- 霧島太陽光発電所施設概要
1684kw (低圧73kW×23区画)
- 面積 24,592㎡



▲地域の風景

▲発電所への道周辺はとても荒れている。

地域住民説明会
(2018.1.28)



私たちがつくる自然エネルギー発電所とどう向き合っていくのか

GCかごしま
生協の検討

私たちが使う電気を自分たちでつくろうというスローガンの下、スタートした市民発電所づくり。それは簡単なことではありません。自然エネルギーで電気をつくりたいというグリーンコープの組合員の思いを地域住民に伝えて、理解を得ることがとても大切です。しかも、太陽光発電所であればパネルを敷設する場所を確保するために、大地に手を入れ、幾ばくかの木々を伐採します。

グリーンコープかごしま生協は、霧島太陽光発電所をつくるにあたって、現地の自然をどう守っていけばいいのか、発電所建設現場と一体化している荒廃した山の自然をそのままにはできないなど、現地視察もを行い自分たちに引き寄せて丁寧に検討してきました。

「止めるという決断もあってもいいのではないのか」という組合員の意見に、徹底的に理事会で意見交換を行いました。重たい議論の末、みんなで合意し、エリアに自然エネルギーの発電所をつくることを決意しました。

その時、ただ単に作れば終わりではないことも覚悟して、「私たちの発電所をつくるんだ」という意志を確認し合ったということです。

今後、竣工式を経て、地域との交流をすすめながら、建設した太陽光発電所を育てていくこととなります。

「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。そのお尋ねに関する進捗はありません。今後、取り組みがすすみ次第、その都度ご報告することにします。

27号からは、グリーンコープが訴訟に踏み出すことを決意した経過と脱原発への思い・願いが記された2019年度グリーンコープ共同体総会議案書「託送料金」からシリーズで紹介しています。

託送料金を問う～原発を無くしていくために～

…託送料金に含まれる問題を無くすために、裁判も辞さず、
たくさんの組合員や市民が話し合い、取り組んでいきます…

— vol.5 —

①東京電力原発事故の真の恐ろしさは明らかにされませんでした。放射能を怖いと思うことをすら押し潰そうとする者たちもいます。事実や情報が明らかになることで、誰もが自然体で「人は生命を脅かすものを拒みます。」と言えるようになりたいと思います。

②50基の原発が全部止まっても電気は足りました。その事実をしっかり着目したいと思います。「原発コストが安い」というのは燃料代だけです。そんな情報も皆が知ったうえで、原発を続けるかどうかを誰もが自然体で話し合えるようになりたいと思います。

Ⅱ. 原発を再稼働させない、新たに建設させないことで脅威や将来の膨大なコストは減っていきます。増えません。それでも、今現にある脅威とは、それを現実化させないように粘り強く向き合っていかなければなりません。同様に、今現にあるコスト負担は、今を生きる私たち自身が考えていかなければなりません。そのためにも事実や情報は明らかにされねばなりません。

①東京電力原発事故の対処費用は、それが70兆円になったとしてもきちんと負担されねば福島や東日本被災地の復興はできません。今ある50基の原発もきちんと廃炉を見届けねばなりません。そのために「お金が必要」です。そのよう

に原発を延命させようとする国や電力業界の人たちは言います。それ自体はその通りです。誰もが頼かむりできることではありません。

②その意味では、＜生命（いのち）＞に次いで、そうした＜お金＞も大切なものです。であるならば、現状と見通しの情報が正確に示されるべきです。それをせずに「必要だから負担を国民皆が責任をもってください。」と言うのが間違っています。必要な事実と情報を明らかにするのが出発です。それを皆が知って、知った上で皆がどうすべきかを考えて決めていく以外にないし、それが、どんな問題を考えるうえでも一番大切で必要なやりかたです。

Ⅲ. 皆で話しあって決めた結果として、これまで「電源開発促進税」や「使用済燃料再処理等既発電費」を託送料金の形で負担しているのも了解し、今決められようとしている「賠償負担金」や「廃炉円滑化負担金」の負担も了解するとなったら、私たちはそうするでしょう。しかし、それにしても、それを先ず話さないといけないのは私たち国民なのでしょか。

①どんな事業体でも、その事業により起こした事故や事業に使った器物の処理はその会社が先ず責任をもって行ないます。グリーンコープでもそうした事故を

起こしたならば、同じようにその責任を負います。

②ところが、なぜか原発事故や原発廃炉については、それがされません。東京電力も他の大手電力会社も電力業界全体が責任を取っていません。電力会社に貸したお金の利息や利益配当を受けてきた銀行や株主・社債所有者も責任を取りません。それでいて、「福島のために」という言葉を錦の御旗として、「国民（利用者）皆に負担してほしい」と言われているようです。それはおかしいと思います。

③取るべき責任が果たされて、それでも足りないならば、どこがどう足りないということを明確に情報開示して、それで、私たち国民（利用者）がそれを考えていくことが始まっていくのだと思います。その明示と責任の明確化なくして国民だけにそれを考えさせ（負担させ）るといのがおかしいと考えています（※）。

※九州電力の70年近くの歴史の有価証券報告書を私たちが調べてみて、経済成長に伴う電気の需要に十分に応えうる電力が準備されたと言える1965（昭和40）年以降で、電気をつくって届けてくれた直接費用以外に使われたお金として、固定資産9兆9,067億円（そのうち6兆4,125億円が現金化され）、銀行への利息支払3兆6,378億円、株主への利益配当5,833億円、投資家への元利支払6兆1,104億円等、額にして24兆4,462億円にものぼる金額があることが分かりました。このお金はどこから産まれたのでしょうか。すべて利用者が払ってきた電気料金です。関西電力は42兆5,528億円、東京電力は83兆51億円で

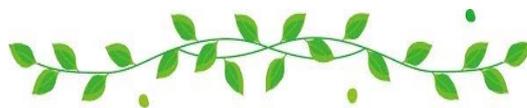
す。国民に“過去に請求していなかった費用”といったものを請求するならば、その前に、利益を得てきた関係者たちに“過去に得た利益”からの負担を求めるべきでしょう。

IV. 事実や情報の公開がされず、責任を取るべき者の責任が取られず、国民皆が話しあうこと（一直接の話し合いもあるし、国会での法律議決のような間接の話し合いもあります）がなされず、密室の経済産業省内の決定（大臣命令）で全てが決められていこうとします。「それはおかしい」と考えます。

①2020年から託送料金に上乗せされる「賠償負担金」も「廃炉円滑化負担金」も、国民（電気利用者）に負担させるというのは、一種の「税金」のようなものです。「税金」は国会で「法律」として決めないといけません。決めるには議論されねばなりません。議論には提案がされねばなりません。提案には必要な情報公開や関係者の責任明示といった前提が必要です。

②それら必要なことを全部逃れようと、一つの行政機関にすぎない経済産業省という空間での限られた検討によって都合よく作ることができて、経済産業大臣がその一存で決定できる「省令」によってことを済ませようとされています。加えて、今後費用が増えても簡単に上乗せできるようにしています。「それはおかしい」ことです。

<次号に続く>



■グリーンコープでんき

- ・1月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所 契約件数	組合員 契約件数	契約容量 (kW)
GC生協おおさか	8	49	243
GC生協ひょうご	10	25	172
GC生協とっとり	2	39	185
GC生協(島根)	1	82	356
GC生協おかやま	6	79	343
GC生協ひろしま	9	103	499
GCやまぐち生協	5	538	2,289
GC生協ふくおか	100	1,878	8,327
GC生協さが	17	107	656
GC生協(長崎)	11	153	706
GC生協くまもと	36	505	2,620
GC生協おおいた	17	268	1,200
GC生協みやざき	2	132	483
GCかごしま生協	13	202	939
単協計	237	4,160	19,018
G・市民電力(低圧)	41		252
G・市民電力(高圧)	62		4,539
総合計	340	4,160	23,809

【お詫びと訂正】

前号(31号)の供給容量(kW)総合計が間違っていました。正しくは23,883kWでした。お詫びして訂正させていただきます。

■1月の電源構成

【関西電力エリア】

- ・神戸市環境局西クリーンセンター
(燃料:一般ごみ)…86.8%
- ・大阪市平野工場
(燃料:一般ごみ)…13.2%

【中国電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー
(燃料:バイオマス)…100%

【九州電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー
(燃料:バイオマス)…98.6%
- ・熊本県小国町の馬洗瀬小水力発電所と
杖立温泉熱バイナリー発電所…1.4%

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

■メルマガ登録会員募集中!

自然エネルギーの発電所づくりやグリーンコープでんき、脱原発に関するさまざまな情報を月1回程度メールでお届けしています。



■市民発電所

- ・グリーン・市民電力の各発電所の2019年11月までの累計実績です。前年に比べて559,052kWh少ない発電量となっています。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	855,320	34,212,800
平池水上太陽光発電所	1,260	1,188,868	42,799,256
深年太陽光発電所	1,550	1,135,890	77,233,244
若宮物流センター	47	33,475	1,238,575
広島物流センター	47	38,740	1,433,380
やまぐち西部地域本部	54	47,173	1,556,709
グリーン未来ソーラー(10箇所)	244	314,979	6,614,559
合計	4,259	3,614,445	165,088,523

◆グリーン電力出資金

- ・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億3,075万円になっています。
- ・出資目標額(積立目標額)は、1月24日現在で、11億1,081万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	207	233	17,360,000
GC生協ひょうご	92	111	7,496,000
GC生協とっとり	134	147	10,760,000
GC生協(島根)	242	253	11,970,000
GC生協おかやま	146	162	12,650,000
GC生協ひろしま	649	756	74,727,000
GCやまぐち生協	579	671	42,920,000
GC生協ふくおか	5,425	6,287	530,126,000
GC生協さが	322	360	44,685,000
GC生協(長崎)	571	628	55,633,000
GC生協くまもと	1,478	1,674	124,744,000
GC生協おおいた	781	869	69,618,000
GC生協みやざき	294	331	29,015,000
GCかごしま生協	710	806	79,106,000
合計	11,630	13,288	1,110,810,000

- ・グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。

- ・2020年1月末支出総額は8億4,881万円で、残高は8,194万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	930,757,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	81,946,779